



石神井南中学校 学校だより

令和 2年度 第 5 号
発行日 9月28日(月)
練馬区立石神井南中学校
校長 田邊 克宣

今年度の折り返し地点で

校長 田邊 克宣

かまびすしく鳴っていた蝉の声も、コオロギやカネタタキに席を譲り、秋の気配が日増しに濃くなってきました。学校では、8月24日から始まった第2学期もひと月が過ぎ、先週末に定期考査を終了したところです。コロナウイルスの一種に対する諸々の対応は、学校の内外を問わず引き続き気を緩めることなく行う必要のある現状ですが、生徒たちの順応性は高く、目立った混乱等もなく順調に学校生活を送っております。9月12日に行った新入生保護者説明会では、ご出席いただいた保護者の方々から、生徒たちが集中して授業に取り組む姿や、元気な挨拶、また行き届いた清掃など、本校のありのままの様子についてお褒めの言葉をたくさんいただきました。26日の離任式で、半年ぶりに再開した元教職員も、石南中生の挨拶、聞く態度、落ち着いた様子といった良さが、離れてみて改めて分かったと口々に讃えてくださいました。これもひとえに、日頃の家庭での生活が背景にあってこそと、ありがたく思っております。

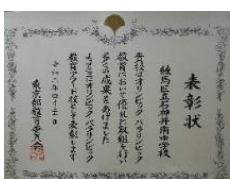
さて、10月17日には、運動会を予定しております。本校の看板行事として代々、生徒が主体となって成功させてきた大切な行事です。今回の実施に当たっては、感染防止の手立てが必須であり、規模の縮小や競技種目の見直し等、学校としても生徒の安全確保を最優先として検討を重ねて参りました。

そうした中、生徒席のSDを確保すると、どうしても保護者、地域の皆様の参観スペースをとることができません。このことについては、学校としても、観戦場所や時間の限定、動線等、最後まで実現の可能性を探りました。結果として、保護者や地域の方等、大人同士での感染拡大リスクの回避等を考慮し、苦渋の決断として、保護者や地域の方々の参観はご遠慮いただくことといたしました。日常的にいろいろと制約のある中、せめてこの一日は、生徒たちに伸び伸びと活動させたい、そして運動会実施後も、健康に学校生活を送らせたい、そのための安全確保を主意としての決定であることを、どうかご理解いただきたく、伏してお願い申し上げます。

生徒たちは、すでに準備に取り組んでいます。運動会という一大行事を、練習段階からの活動を通して経験することで、本校の伝統である“何事にも一生懸命”を体得してくれることを信じています。なお、当日の様子については、後日、スライドショーで紹介する事等を検討いたしております。決定次第お知らせいたします。

今年の秋は短く、冬の寒さは厳しいだろうとの予報も出ています。今年度より、防寒、機能性の面から、女子のスラックス着用も許可いたします。ただし、標準服としての制定をしておりませんので、着用する場合は、「生活のきまり」及び「衣替えのお知らせ」に準じ『紺のスラックス』を、各ご家庭でご準備ください。（「ひのきや」「むさしの商店」でも相談に応じます。）

今年度も後半戦に入り、残り6ヵ月、まだまだ予断の許さない状況の中、石南中生が、与えられた環境の中で、どれだけの成長を遂げられるのか。その可能性のために、学校としてできる最大限の取り組みを今後も引き続き検討しながら、臨機応変の対応をまいります。保護者、地域の皆様には、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



～ オリンピック・パラリンピック教育アワード校 表彰 ～

スポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックは、同時に、持続可能な社会の形成のために様々な視点からの取組を実施しています。

令和元年度に本校で行った「ふくのカプロジェクト」「CAP50」といった環境・人権問題に関わる生徒主体の活動や、「ボッチャ体験学習」といった障害者理解への取組が、オリンピック・パラリンピック教育の理念・趣旨にかなっていると評価され、東京都教育委員会から表彰を受けました。

9月26日に行われた離任式で、離任された先生が、「石南中の素晴らしさに自信を持ち、その伝統



を受け継いでいってほしい」と口々におっしゃっていました。皆さんにとって、石南中の伝統と聞いて思い浮かべることは何ですか。挨拶、礼儀正しさ、きちんと話を聴く姿勢・・・、生徒の皆さんとは3か月余りの期間しか接していない私でも、これらの事を迷わず挙げるができますし、まだ他にもたくさんあります。それらがいつから、どのようにして根付いていったのかは分かりません。

気持ちの良い挨拶をする人、礼儀正しい人、きちんと話を聴ける人には共通するものがあります。既にそれらの行動を身につけている皆さんにとっては、特に意識しているわけではないのだと思いますが、その共通点とは何だと思えますか。それは、相手の存在であり、その相手を尊重する心であると、私は思います。

「心」そのものを実際に目にすることはできません。しかし相手を尊重する心があるから、日頃の礼儀正しい態度に表れたり、集会で相手の方に身体を向けて話を聴く姿に表れたりするのだと思います。

石南中の伝統の一つが、「相手を尊重する心をもって学校生活を送ることができること」であるならば、離任された先生は、そのことに「自信を持ってよい」と示唆してくれました。これは、皆さんへの課題なのかもしれません。皆さんを含めた日本の子供全体の課題とも言えます。日本の子供は他国に比べて自信をもつことが苦手なようです。子供が自信を持って過ごしていけるようにすることは、大人も含めた日本全体の課題です。理想の自分にはまだまだ及ばないと感じている人も少なくないかもしれませんが、時々立ち止まって、小さなことでも自分を

褒めてあげることも大切です。

最後に「伝統を引き継ぐ」にはどうしたらよいのか考えましょう。先程、様々な行動様式の源となる心の存在について述べました。当然、心がないと行動には至りません。しかし、心があるだけで行動に結びつくわけでもありません。行動に表そうとする意識が必要になります。難しいことではありません。その行動の良さ（価値）に気づけば自然に実践できます。そうして生まれた行動の積み重ねが、伝統を引き継ぐことになるのだと思います。

一月ほど前の出来事を紹介します。

いつも楽しい食事の時間を提供してくれている放送委員さんですが、放送室内はカーペット張りのため、上履きのまま上がれません。先日、1年生二人が当番だった日のことです。放送室前の廊下に、脱いだ後の上履きが、つま先が入り口を向いたままになっていたり、右と左の上履きが少し重なったりしていました。それを見た他学年の先生が、放送室を覗いて声をかけ、どのようにしておくのがよいかを教えた場面がありました。今では1年生の上履きも、きちんとそろえて並べられています。今は当たり前のように実践している2、3年生も、かつて1年生だった頃は、同じように教えてもらった日があったのかもしれませんが。整然と入り口にかかとを向けて揃えておく習慣にも、その根底には相手の存在を大切にすることを心が含まれていると考えれば、前に述べた石南中生の伝統に加えることもできそうです。

今年は様々な行事が中止を余儀なくされ、1年生にとっては上級生の姿を直接見て学ぶ機会に恵まれていない状況があります。しかし、今週からいよいよ運動会練習が始まります。初めて全校生徒が集います。下級生は上級生の姿を間近で見て、石南中生の伝統の良さを肌で感じ、引き継いでいってほしいと思います。

